

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー

千葉大学 教育学部 学校教員養成課程

東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師

加瀬 政美

【第13号】 小・中学校向けバージョン

小中の接続を考えると、中学校の指導者は、小学校の外国語教育を無視できません。今、教えている子は、小学校で英語をどのように学んできたのか把握する必要があります。小学校の先生は、今教えた子が、中学校ではどのように学ぶのかを知る必要があります。そこで、小学校・中学校の先生も外国語の授業とはどのようなものかしっかりと押さえておきたい。

1 問い？

○「外国語活動・外国語」とはどのような場所か？

この問いにどのように答えますか？

まず、考えましょう！ 自分なりにキーワードを挙げてみましょう！

モデル解答 ズバリ！

外国語活動・外国語は、

①「ことば」の学習であり、②「コミュニケーションについて学ぶ場」である。

①とは、何を学習するのか？

- ・「ことば」で人と人をつなぐ
- ・「相手のこと」をよく聞くて知る
- ・「自己表現」を通して、他者への関心を高める

②とは、コミュニケーション力とはよく言われますが、どんな力か？

- ・人と関わる力
- ・自分を表現する力
- ・相手の気持ちを考え、思いを寄せる力（相手意識）
- ・力を合わせて取り組む力（協働）

指導者として、自分なりの言葉で、しっかりと明確に押さえておくと、指導するための「心の軸」がぶれません！

2 「楽しい外国語の授業」の4つの要素とは？

- ①安心できる授業であること（子どもが安心して参加できる授業）
- ②所属感を感じることができる授業であること（ペアやグループで協働でき、やり遂げた充実感や仲間との共感的な関係がある授業）
- ③成長感を感じることができる授業（インプットがあって、気づきがあり、言いたい表現の技能が付き、コミュニケーションの中で使える→このような段階のある授業）
- ④自己表現ができる授業（モデルを見て、目標の姿をイメージでき、子ども自身もその姿に近づける授業）

これらの要素を通して、「もっと知りたい、学びたい!」、「もっとできるようになりたい!」、「もっと関わりたい!」いうように学習者を動機づけたい(motivating)ものですね。

6月、学校現場で、計画的に授業研究会が行われる時期でもあります。どんな指導をして、どんな子にしたいのか、ビジョンをしっかりと持って進めていきたいものですね。

